
前夜祭の七不思議

思惟

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

前夜祭の七不思議

【Nコード】

N3226B

【作者名】

思惟

【あらすじ】

誰も1度は耳にしたことのある七不思議。あなたは実際に体感したことはありますか？私の高校は前夜祭の夜何かが起きる。

学校

誰も居ないはずの音楽室に鳴り響くピアノの音。

夕方になると真っ赤に血に染まる教室。

夜中の理科室にいるはずのない人影。

校庭のすみに一輪だけ咲いている季節外れの赤い花。

あるはずのない四階へと続く階段。

踊り場に設置されている鏡だけに映る見たことのない生徒。

美術室にならぶ血だらけの挟み

あなたはこのような話を聞いた時少し恐怖と感興をかんじませんでしたか？

私はこの七不思議を聞いたとき。

理由^{わけ}もなく心がゆれた。

慣れてしまった日常にうんざりしているときに

この話を聞いて

この話を実感したから。

私の話を聞いて。

私が見たあの生涯忘れられない光景を。

切なくて嬉しくて悲しくてちょっとだけ怖くて、足が震えたけれど
私は絶対に忘れない。

この事を忘れずに覚えていたいと思う。

一生。

始まりは高校二年の文化祭の前日だった。

あの時私たちは自分の身に何が起こっているかよく理解していなかった。

踊り場の生徒（教室）

私は文化祭の準備にあきて友達と怪談話をしていた。

遠子^{とむこ}は大の怪談好きで様々な怖い話を嬉しそうに話した。最近起きた幽霊目撃情報を始め中学の時の七不思議まで。

そしてこの高校の七不思議も。

「うちの学校にも七不思議あるんだ」

「うん。部活の先輩に教えてもらったんだ!!」

さすが怖いものの好きの遠子だ。学校の怖い噂なら何でも知っている。

満面の笑みで嬉しそうに答える遠子。

「本当に怖い話好きだよね。そういえば『七不思議の踊り場に設置されている鏡だけに映る見たことのない生徒』って今噂で流行ってるあれ?」

「うん、そうそう。ここ最近噂になってる目撃談の多い鏡に映る女の幽霊だよ。」

最近、文化祭が近いとあって生徒のごく一部は放課後遅くまで残って準備にあたっている。

そして文化祭は3年生が中心となるため下校するさいは2階の階段を通る事が多い。

つまり踊り場にある大きな鏡の前を通るのだ。

あの全身の映るひときは大きな鏡。

登校時の朝は普通に見える鏡。

夕方になると蛍光灯に照らされてなんとも不気味に見える。
それ思うだけで身震いがした。

「時間的に今が多いんだよ。目撃談。」

時計を見て遠子は嬉しそうに言う。

…この先遠子が言いそうな事は予感できた。

「見に行こう？」

…やっぱり。遠子は意外に子供っぽい。

「でも、まだ机の移動とか終わってないよ？」

「大丈夫。さっきからサボってる人いるし。少しだけならバレないよ」

確かに辺りを見渡すと何人かはドアや教室の後ろに座り込んで話している。

「分かった。いいよ少しだけね？」

そうやって私達は2階の階段へと向かった。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3226b/>

前夜祭の七不思議

2010年12月18日17時39分発行